

# 喉頭がんの病期分類

---

# 局在と亜部位 《喉頭》

- 声門上部      **C32.1 (C10.1)**
- 声門            **C32.0**
- 声門下部      **C32.2**

ICD-O局在	診療情報所見	英語
<b>C32.0</b>	声門 (i) 声帯 (ii) 前連合(前交連) (iii) 後連合(後交連)	Glottis
<b>C32.1</b>	声門上部 (i) 舌骨上 喉頭蓋 ※(C10.1を含む) (ii) 披裂喉頭蓋ひだ (iii) 披裂 (iv) 舌骨下 喉頭蓋 (v) 仮声帯	Supraglottis
<b>C32.2</b>	声門下部	Subglottis
<b>C32.3</b>	喉頭軟骨	Laryngeal Cartilage
<b>C32.8</b>	喉頭の境界部病巣	Overlap lesion of larynx
<b>C32.9</b>	喉頭、NOS	Larynx, NOS
<b>C10.1</b>	喉頭蓋舌面	Ant. Surface of epiglottis

# 局在コードと亜部位 《喉頭》

## ● 声門上部 C32.1

● 舌骨上喉頭蓋(先端・舌面・喉頭面) → 舌面は **C10.1**

● 披裂喉頭蓋ヒダ、喉頭面

● 披裂

● 舌骨下喉頭蓋

● 仮声帯

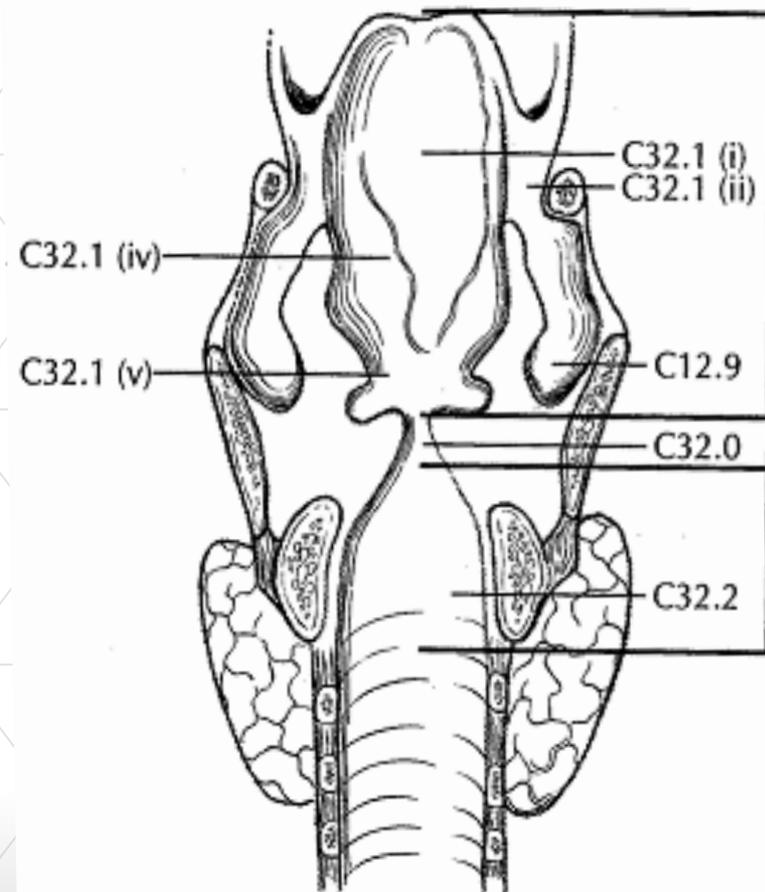
## ● 声門 C32.0

● 声帯

● 前連合

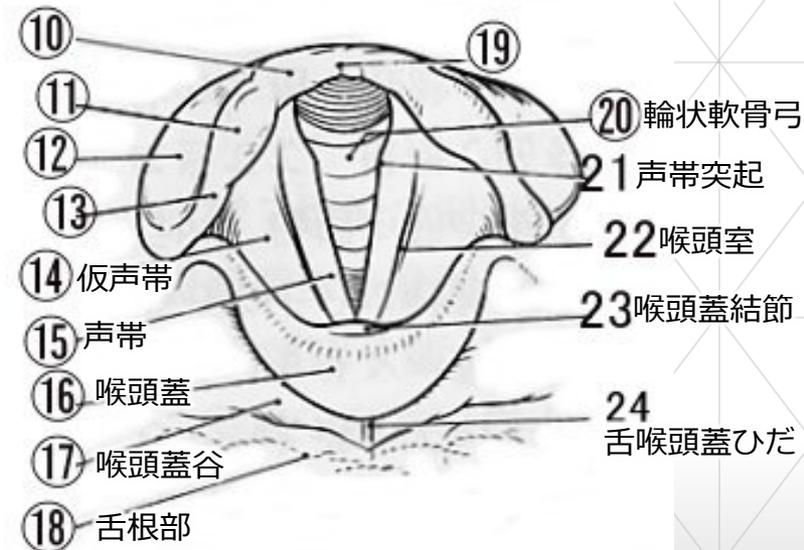
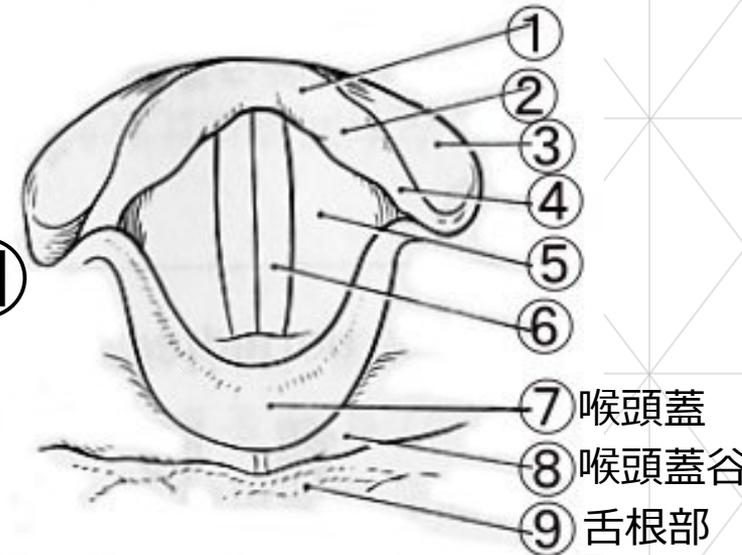
● 後連合

## ● 声門下部 C32.2



# 喉頭のTNM分類で出てくる用語

- 声門上部・声門・声門下部
- 披裂喉頭蓋ひだ④⑬  
小角結節①⑩、楔状結節②⑪
- 披裂⑱
- 仮声帯⑤⑭
- 声帯⑥⑮
- 喉頭蓋谷⑧⑰
- 椎前間隙
- 舌骨下筋



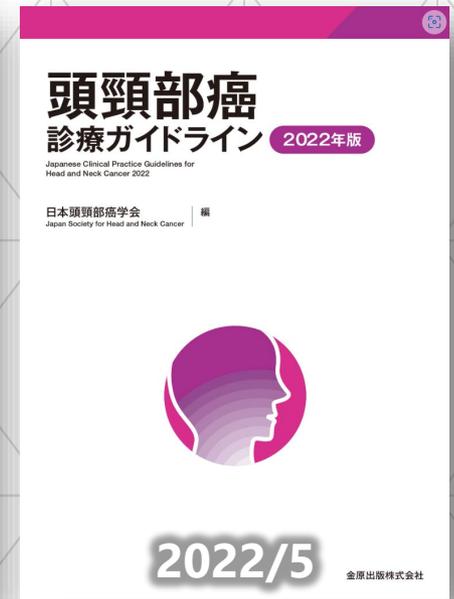
# 形態コード(組織型)(規約第6版補訂版) 《喉頭》

病理組織名 (日本語)	英語表記	形態コード
上皮内扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma in situ, NOS	<b>8070/2</b>
癌腫、NOS	Carcinoma, NOS	<b>8010/3</b>
扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma	<b>8070/3</b>
高分化型～	well diff. SCC	<b>8070/31</b>
中分化型～	moderately diff. SCC	<b>8070/32</b>
低分化型～	poorly diff. SCC	<b>8070/33</b>
疣状癌、NOS	Verrucous ca., NOS	<b>8051/3</b>
紡錘形細胞癌、NOS	Spindle cell ca., NOS	<b>8074/3</b>
癌肉腫、NOS	Carcinosarcoma, NOS	<b>8980/3</b>
移行上皮癌、NOS	Transitional ca., NOS	<b>8120/3</b>
リンパ上皮癌、NOS	Lymphoepithelial ca., NOS	<b>8082/3</b>
腺癌、NOS		<b>8140/3</b>
粘表皮癌	Mucoepidermoid ca.	<b>8430/3</b>
腺房細胞癌	Acinar cell ca.	<b>8550/3</b>
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic ca.	<b>8200/3</b>
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	<b>8560/3</b>
多型性腺腫内癌	Carcinoma in pleomorphic adenoma	<b>8941/3</b>
癌腫、未分化、NOS	Carcinoma, undifferentiated, NOS	<b>8020/34</b>
悪性黒色腫	Malig. Melanoma	<b>8720/3</b>
歯原性腫瘍	Odontogenic tumors, malig.	<b>9270/3</b>

肉腫、リンパ腫なども発生するが、多くは扁平上皮癌

# 形態コード(組織型)(規約第6版補訂版)《喉頭》

病理組織名 (日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性	Squamous cell carcinoma, NOS	<b>8070/3</b>
従来型扁平上皮癌	Conventional SCC	<b>8070/3</b>
疣状扁平上皮癌	Verrucous SCC	<b>8051/3</b>
基底細胞様扁平上皮癌	Basaloid SCC	<b>8083/3</b>
乳頭状扁平上皮癌	Papillary SCC	<b>8052/3</b>
紡錘細胞扁平上皮癌	Spindle cell SCC	<b>8074/3</b>
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	<b>8560/3</b>
リンパ上皮癌、NOS	Lymphoepithelial ca.	<b>8083/3</b>
前癌病変	Precursor lesion	
低異型度	Low-grade (mild~moderate dysplasia)	
高異型度	High-grade (Sever dysplasia & Ca. in situ)	<b>8010/2</b>
神経内分泌腫瘍		
高分化神経内分泌癌	Well-diff. neuroendocrine ca.	<b>8240/3</b>
中分化神経内分泌癌	Moderately diff. neuroendocrine ca.	<b>8249/3</b>
低分化神経内分泌癌	Poorly diff. neuroendocrine ca.	<b>8246/3</b>
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine ca.	<b>8041/3</b>
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine ca.	<b>8013/3</b>
唾液腺腫瘍	Salivary gland tumors	
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic ca.	<b>8200/3</b>
軟部組織腫瘍		
軟骨腫瘍		



# 声門上部がんの病期分類

# 局在コードと亜部位

# 《喉頭》

		局在	取扱い規約・UICC TNM	ICD-O部位	
声門 上部	喉頭 入口 部	<b>C10.1</b>	(i)舌骨上喉頭蓋	Anterior surface of epiglottis	喉頭蓋の前面
		<b>C32.1</b>	(i)舌骨上喉頭蓋 (先端、舌面C10.1、喉頭面) (ii)披裂喉頭蓋ヒダ、喉頭面 (iii)披裂	Supraglottis	声門上部
	(iv)舌骨下喉頭蓋 (v)仮声帯				
声門		<b>C32.0</b>	声門 (i)声帯、(ii)前連合、(iii)後連合	Glottis	声門
声門 下部		<b>C32.2</b>	声門下部	Subglottis	声門下部
		<b>C32.3</b>		Laryngeal cartilage	喉頭軟骨
		<b>C32.8</b>		Overlapping lesion of larynx	喉頭の 境界部病巣
		<b>C32.9</b>		Larynx,NOS	喉頭,NOS

# T分類(UICC第8版) 《声門上部》

限局/浸潤

**Tis** 上皮内癌

**T1** 声帯運動が正常、声門上部の1亜部位に限局

**T2** 喉頭の固定なく、声門上部の他の亜部位、  
声門または声門上部の外側域の粘膜に浸潤

**T3** 声帯が固定し、喉頭に限局

and/or 輪状後部、喉頭蓋前方組織、声門周囲腔のいずれかに浸潤、または甲状軟骨のわずかなびらんを伴う

**T4a** 甲状軟骨を破って浸潤する腫瘍、

and/or 喉頭外(気管、舌深層の筋・外舌筋を含む頸部軟部組織、舌骨下筋群、甲状腺、食道)のいずれかに浸潤

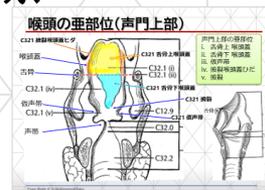
**T4b** 椎前間隙、縦隔に浸潤、

または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

- 声門上部の亜部位
- i. 舌骨上 喉頭蓋
  - ii. 舌骨下 喉頭蓋
  - iii. 仮声帯
  - iv. 披裂喉頭蓋ひだ
  - v. 披裂

局在コードと亜部位 (喉頭)

局在コード	局在コードとICD-O8	ICD-O8
C18.1	(1)舌骨上喉頭蓋	Surface of epiglottis
C18.2	(2)舌骨下喉頭蓋	Subglottis
C18.3	(3)喉頭蓋前方組織	Glottis
C18.4	(4)輪状後部	Subglottis
C18.5	(5)喉頭蓋前方組織	Laryngeal cartilage
C18.6	(6)喉頭蓋前方組織	Overlapping portion of larynx
C18.7	(7)喉頭蓋前方組織	Larynx, NOS



# T分類(UICC第8版) 《声門上部》

## ●浸潤部位

浸潤方向	T2	T3	T4a	T4b
上	—	—	—	—
下	声門	—	気管	縦隔
前(顔)	声門上部の外側域粘膜 (喉頭蓋谷/舌根)	喉頭蓋前間隙	舌深層筋/外舌筋 舌骨下筋群、甲状腺	
後(背)	—	輪状後部	食道	椎前間隙
側面	声門上部の外側域粘膜 (梨状陥凹内壁)	傍声帯間隙 甲状軟骨の内側皮質	甲状軟骨 (貫通)	頸動脈 (全周性)

# cN分類(UICC第8版) 《声門上部》

**N0** 領域リンパ節転移なし

**N1** 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2a** 同側の**単発性**リンパ節転移で  
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N2b** 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2c** 両側 または **対側**のリンパ節転移で  
最大径 $\leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N3a** 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

**N3b** **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤\***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

- \* 1) 皮膚浸潤がある場合、  
2) 下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、  
3) 神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

# cN分類(UICC第8版) 《声門上部》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発	
↑	<b>N1</b>	なし	3cm以下	同側	単発	
	<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発
		<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
		<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
<b>N3b</b>		あり	—	—	—	

# pN分類(UICC第8版) 《声門上部》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 節外進展のない、単一、同側で  
3cm以下

N2a 節外進展のない、単一、同側で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

または 節外進展を伴う、単一、同側で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、

または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、

または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

# pN分類(UICC第8版) 《声門上部》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発
<b>N1</b>		なし	3cm以下	同側	単発
<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発
		あり	3cm以下	同側	単発
	<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
	<b>N3b</b>	あり	3cm <	同側	単発
		あり	—	同側	多発
		あり	—	両側or対側	—

# M分類(UICC第8版) 《声門上部》

---

( MX 遠隔転移の評価が不可能 )

M0 遠隔転移なし

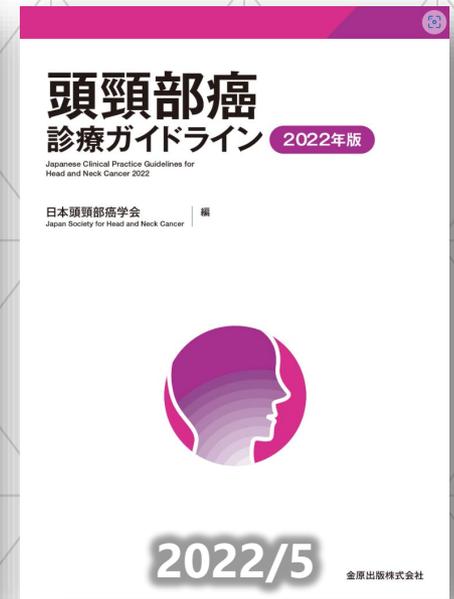
M1 遠隔転移あり

# ステージ(UICC第8版) 《声門上部》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		0			
<b>T1</b>		I	III	IVA	IVB
<b>T2</b>		II	III	IVA	IVB
<b>T3</b>		III	III	IVA	IVB
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	IVA	IVA	IVA	IVB
	<b>T4b</b>	IVB	IVB	IVB	IVB
<b>M1</b>		IVC	IVC	IVC	IVC

# 進展度(UICC第8版) 《声門上部》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		上皮内			
<b>T1</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T2</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T3</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	<b>T4b</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
<b>M1</b>		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移



# 声門がんの病期分類

---

# T分類(UICC第8版) 《声門》

限局/浸潤

Tis 上皮内癌

T1 声帯運動が正常、一側声帯に限局

T1a 一側声帯に限局

T1b 両側声帯に浸潤

T2 声門上部 かつ/または 声門下部に進展、  
かつ/または 声帯運動の制限を伴う腫瘍

T3 声帯が固定し、喉頭内に限局 かつ/または 声門周囲腔に浸潤、  
または 甲状軟骨のわずかなびらんを伴う  
傍声帯間隙  
内側皮質に浸潤

T4a 甲状軟骨を破って浸潤する腫瘍、  
または 喉頭外(気管、舌深層の筋・外舌筋を含む頸部軟部組織、  
舌骨下筋群、甲状腺、食道のいずれか)に浸潤  
前頸筋群

T4b 椎前間隙、縦隔に浸潤、  
または 頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

# T分類(UICC第8版) 《声門》

## ●浸潤部位

浸潤方向	T2	T3	T4a	T4b
上	声門上部	—	—	—
下	声門下部	—	気管	縦隔
前(顔)	—	—	舌深層筋/外舌筋 舌骨下筋群、甲状腺	—
後(背)	—	—	食道	椎前間隙
側面	—	傍声帯間隙 甲状軟骨の内側皮質	甲状軟骨 (貫通)	頸動脈 (全周性)

## ●声帯運動

声帯運動	T分類
正常	<b>T1</b>
制限	<b>T2</b>
固定	<b>T3</b>

# cN分類(UICC第8版) 《声門》

**N0** 領域リンパ節転移なし

**N1** 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2a** 同側の**単発性**リンパ節転移で  
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N2b** 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2c** 両側 または **対側**のリンパ節転移で  
最大径 $\leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N3a** 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

**N3b** **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤\***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

- \* 1) 皮膚浸潤がある場合、  
2) 下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、  
3) 神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

# cN分類(UICC第8版) 《声門》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発
N2	<b>N1</b>	なし	3cm以下	同側	単発
	<b>N2a</b>	なし	3cm < $\leq$ 6cm	同側	単発
	<b>N2b</b>	なし	$\leq$ 6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	$\leq$ 6cm	両側or対側	—
N3	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
	<b>N3b</b>	あり	—	—	—

# pN分類(UICC第8版) 《声門》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 節外進展のない、単一、同側で  
3cm以下

N2a 節外進展のない、単一、同側で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

または 節外進展を伴う、単一、同側で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、

または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、

または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

# pN分類(UICC第8版) 《声門》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発
<b>N1</b>		なし	3cm以下	同側	単発
<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
		あり	3cm以下	同側	単発
	<b>N2b</b>	なし	≤6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	≤6cm	両側or対側	—
<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
	<b>N3b</b>	あり	3cm <	同側	単発
		あり	—	同側	多発
		あり	—	両側or対側	—

# M分類(UICC第8版) 《声門》

---

( MX 遠隔転移の評価が不可能 )

M0 遠隔転移なし

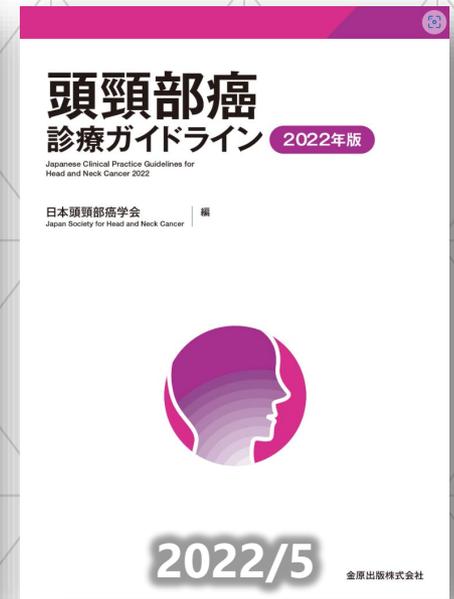
M1 遠隔転移あり

# ステージ(UICC第8版) 《声門》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		0			
<b>T1</b>		I	III	IVA	IVB
<b>T2</b>		II	III	IVA	IVB
<b>T3</b>		III	III	IVA	IVB
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	IVA	IVA	IVA	IVB
	<b>T4b</b>	IVB	IVB	IVB	IVB
<b>M1</b>		IVC	IVC	IVC	IVC

# 進展度(UICC第8版) 《声門》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		上皮内			
<b>T1</b>		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T2</b>		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T3</b>		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	<b>T4b</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
<b>M1</b>		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移



# 声門下部がんの病期分類

# T分類(UICC第8版) 《声門下部》

限局/浸潤

**T1** 声帯下部に限局

**T2** 声帯に進展、  
かつ 声帯運動が正常または制限を伴う腫瘍

**T3** 声帯が固定し、喉頭内に限局

**T4a** 輪状軟骨あるいは甲状軟骨を破って浸潤する腫瘍、  
かつ/または 喉頭外(気管、舌深層の筋・外舌筋を含む頸部軟部  
組織、舌骨下筋群、甲状腺、食道)のいずれかに浸潤

**T4b** 椎前間隙、縦隔に浸潤、  
または 頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

# T分類(UICC第8版) 《声門下部》

## ●浸潤部位

浸潤方向	T2	T3	T4a	T4b
上	声門(声帯固定なし)	声門(声帯固定) 声門上部	—	—
下	—	—	気管	縦隔
前(顔)	—	—	舌深層筋/外舌筋 舌骨下筋群、甲状腺	—
後(背)	—	—	食道	椎前間隙
側面	—	—	甲状軟骨 (貫通) 輪状軟骨	頸動脈 (全周性)

# cN分類(UICC第8版) 《声門下部》

**N0** 領域リンパ節転移なし

**N1** 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2a** 同側の**単発性**リンパ節転移で  
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N2b** 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$   
かつ **節外浸潤**なし

**N2c** 両側 または **対側**のリンパ節転移で  
最大径 $\leq 6\text{cm}$  かつ **節外浸潤**なし

**N3a** 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

**N3b** **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤\***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

- \* 1) 皮膚浸潤がある場合、  
2) 下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、  
3) 神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

# cN分類(UICC第8版) 《声門下部》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発	
↑	<b>N1</b>	なし	3cm以下	同側	単発	
	<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発
		<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
		<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
<b>N3b</b>		あり	—	—	—	

# pN分類(UICC第8版) 《声門下部》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 節外進展のない、単一、同側で  
3cm以下

N2a 節外進展のない、単一、同側で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

または 節外進展を伴う、単一、同側で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、

または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、

または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

# pN分類(UICC第8版) 《声門下部》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発
<b>N1</b>		なし	3cm以下	同側	単発
<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
		あり	3cm以下	同側	単発
	<b>N2b</b>	なし	≤6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	≤6cm	両側or対側	—
<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
	<b>N3b</b>	あり	3cm <	同側	単発
		あり	—	同側	多発
		あり	—	両側or対側	—

# **M分類(UICC第8版) 《声門下部》**

---

( MX 遠隔転移の評価が不可能 )

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

# ステージ(UICC第8版) 《声門下部》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		0			
<b>T1</b>		I	III	IVA	IVB
<b>T2</b>		II	III	IVA	IVB
<b>T3</b>		III	III	IVA	IVB
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	IVA	IVA	IVA	IVB
	<b>T4b</b>	IVB	IVB	IVB	IVB
<b>M1</b>		IVC	IVC	IVC	IVC

# 進展度(UICC第8版) 《声門下部》

		N0	N1	N2	N3
<b>Tis</b>		上皮内			
<b>T1</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T2</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T3</b>		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
<b>T4</b>	<b>T4a</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	<b>T4b</b>	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
<b>M1</b>		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# 原発不明の頭頸部癌《頸部リンパ節》

---

- 組織学的に 扁平上皮癌の転移が  
頸部リンパ節で確認されたが、  
原発の病巣が確認できない場合に適用
- **EBV** および **HPV/p16**の  
ウィルス感染の有無で 原発巣を推定
  - EBV陽性が考えられる場合 上咽頭癌
  - HPV陽性 あるいは p16陽性 p16陽性中咽頭癌
  - いずれも不明(未検査を含む)

# T分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

- いずれの場合も、原発巣は不明であるため、
  - EBV陽性  
**T0** 原発病巣を認めない
  - HPV/p16陽性  
**T0** 原発病巣を認めない
  - EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)  
**T0** 原発病巣を認めない

pT分類は存在しない

# cN分類(UICC 第8版) 《頸部リンパ節》

- EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

## cN因子

**N1** 節外進展のない、単発で 3cm以下

**N2a** 節外進展のない、単発で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

**N2b** 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

**N2c** 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

**N3a** 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

**N3b** 臨床的に節外への進展を伴うリンパ節転移

「臨床的な節外進展」は、皮膚あるいは神経浸潤所見、または  
深部での筋/隣接組織への固定/結合を伴う軟部組織浸潤所見による

# cN分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発	
↑	<b>N1</b>	なし	3cm以下	—	単発	
	<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	—	単発
		<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
		<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
<b>N3b</b>		あり	—	—	—	

# pN分類(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

■EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

## pN因子

pN1 節外進展のない、単発で 3cm以下

pN2a 節外進展のない、単発で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移  
または 節外進展を伴う、単発で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、  
または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、  
または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移、

# pN分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発
<b>N1</b>		なし	3cm以下	—	単発
<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	—	単発
		あり	3cm以下	—	単発
	<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
	<b>N3b</b>	あり	3cm <	同側	単発
		あり	—	同側	多発
		あり	—	両側or対側	—

# pN分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	Ⅲ	ⅣA	ⅣB
M1	ⅣC	ⅣC	ⅣC

# 進展度(UICC 第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# **N分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》**

## ■ HPV/p16陽性の場合

### cN因子

cN0 領域リンパ節転移なし

cN1 同側(複数を含む)で 全て最大径6cm以下

cN2 対側/両側で 全て最大径6cm以下

cN3 6cmを越えるリンパ節転移

### pN因子

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 1~4個のリンパ節転移

pN2 5個以上のリンパ節転移

《中咽頭》 p16陽性のN分類と同じ

# ステージ(UICC 第8版)《頸部リンパ節》

## ■HPV/p16陽性の場合

cステージ

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	I	II	III
cM1	IV	IV	IV

pステージ

	pN1	pN2
pT 該当せず	I	II
pM1	IV	IV

# 進展度(UICC 第8版)《頸部リンパ節》

## ■HPV/p16陽性の場合

### c進展度

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
cM1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

### pステージ

	pN1	pN2
pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
pM1	遠隔転移	遠隔転移

# N分類(UICC第8版) 《頸部リンパ節》



## ■ EBV陽性の場合

N1 **輪状軟骨下縁より上方**の**一側** 頸部リンパ節転移  
(最大径 $\leq 6$ cm)

または **一側/両側** 咽頭後リンパ節転移(最大径 $\leq 6$ cm)

N2 **輪状軟骨下縁より上方**の**両側** 頸部リンパ節転移  
(最大径 $\leq 6$ cm)

N3 最大径が6cmを超える頸部リンパ節転移

または **輪状軟骨下縁より下方**のリンパ節への転移

《上咽頭》のN分類と同じ (cNとpNは同じ分類)

# ステージ(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

## ■EBV陽性の場合

●T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	II	III	IVA
M1	IVB	IVB	IVB

# 進展度(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

## ■EBV陽性の場合

●T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# 原発不明の頭頸部癌《頸部リンパ節》

---

- 組織学的に 扁平上皮癌の転移が  
頸部リンパ節で確認されたが、  
原発の病巣が確認できない場合に適用
- **EBV** および **HPV/p16**の  
ウィルス感染の有無で 原発巣を推定
  - EBV陽性が考えられる場合 上咽頭癌
  - HPV陽性 あるいは p16陽性 p16陽性中咽頭癌
  - いずれも不明(未検査を含む)

# T分類(UICC 第8版)《頸部リンパ節》

- いずれの場合も、原発巣は不明であるため、
  - EBV陽性  
T0 原発病巣を認めない
  - HPV/p16陽性  
T0 原発病巣を認めない
  - EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)  
T0 原発病巣を認めない

pT分類は存在しない

# cN分類(UICC 第8版) 《頸部リンパ節》

- EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

## cN因子

**N1** 節外進展のない、単発で 3cm以下

**N2a** 節外進展のない、単発で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

**N2b** 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

**N2c** 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

**N3a** 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

**N3b** 臨床的に節外への進展を伴うリンパ節転移

「臨床的な節外進展」は、皮膚あるいは神経浸潤所見、または  
深部での筋/隣接組織への固定/結合を伴う軟部組織浸潤所見による

# cN分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発	
↑	<b>N1</b>	なし	3cm以下	—	単発	
	<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	—	単発
		<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
		<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	<b>N3</b>	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
<b>N3b</b>		あり	—	—	—	

# pN分類(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

- EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

## pN因子

pN1 節外進展のない、単発で 3cm以下

pN2a 節外進展のない、単発で  
3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移  
または 節外進展を伴う、単発で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、  
または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、  
または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移、

# pN分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発
<b>N1</b>		なし	3cm以下	—	単発
<b>N2</b>	<b>N2a</b>	なし	3cm < ≤ 6cm	—	単発
		あり	3cm以下	—	単発
	<b>N2b</b>	なし	≤ 6cm	同側	多発
	<b>N2c</b>	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	<b>N3a</b>	なし	6cm <	—	—
<b>N3</b>	<b>N3b</b>	あり	3cm <	同側	単発
		あり	—	同側	多発
	あり	—	両側or対側	—	

# pN分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	Ⅲ	ⅣA	ⅣB
M1	ⅣC	ⅣC	ⅣC

# 進展度(UICC 第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# N分類 (UICC第8版) 《頸部リンパ節》

## ■ HPV/p16陽性の場合

### cN因子

cN0 領域リンパ節転移なし

cN1 同側(複数を含む)で 全て最大径6cm以下

cN2 対側/両側で 全て最大径6cm以下

cN3 6cmを越えるリンパ節転移

### pN因子

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 1~4個のリンパ節転移

pN2 5個以上のリンパ節転移

《中咽頭》 p16陽性のN分類と同じ

# ステージ(UICC第8版)《頸部リンパ節》

## ■HPV/p16陽性の場合

cステージ

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	I	II	III
cM1	IV	IV	IV

pステージ

	pN1	pN2
pT 該当せず	I	II
pM1	IV	IV

# 進展度(UICC第8版)《頸部リンパ節》

## ■HPV/p16陽性の場合

### c進展度

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
cM1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

### p進展度

	pN1	pN2
pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
pM1	遠隔転移	遠隔転移

# N分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》



## ■ EBV陽性の場合

**N1** 輪状軟骨下縁より上方の**一側** 頸部リンパ節転移  
(最大径 $\leq 6$ cm)

または **一側/両側** 咽頭後リンパ節転移(最大径 $\leq 6$ cm)

**N2** 輪状軟骨下縁より上方の**両側** 頸部リンパ節転移  
(最大径 $\leq 6$ cm)

**N3** 最大径が6cmを超える頸部リンパ節転移

または **輪状軟骨下縁より下方**のリンパ節への転移

《上咽頭》の**N**分類と同じ (cNとpNは同じ分類)

# 進展度(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

## ■EBV陽性の場合

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

# ステージ(UICC第8版) 《頸部リンパ節》

## ■EBV陽性の場合

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	II	III	IVA
M1	IVB	IVB	IVB